**菊池渓谷の植物多様性**

菊池渓谷は植物の多様性で有名。4kmの渓谷の端から端まで標高差があるため、気候条件は多岐にわたる。渓谷の下端は標高約500m、起点は標高約800mに位置する。渓谷を登っていくと、植生は常緑広葉樹の森林から落葉広葉樹の森林へと徐々に変化し、上流部ではブナ林を主とした森林になることに気づく。菊池渓谷には750〜800種、そのうち250〜300種の樹木が生育していると推定されている。

渓谷の下流域は暖帯林である。濃い緑色の葉は香りがよく、光沢があり、3本の葉脈が特徴的な**ヤブニッケイ**（Cinnamomum yabunikkei）、硬い革質の葉の裏側が白っぽいことからその名がついた**ウラジロガシ**（Quercus salicina）、3月から4月に赤い無花果の花を群がりで咲かせる**イスノキ**（Distylium racemosum）などがある。中腹にはケヤキやモミジなどの落葉樹やスギが多い。紅葉ヶ瀬付近には、1823年に大名が建築資材として植えたという大杉の林があり、注目される。

渓谷の遊歩道が終わる広河原を過ぎると、モミや観賞用として人気の高い、外側の枝に赤褐色の小さな球果ができる**ツガ**（Tsuga sieboldii）などの針葉樹、そして鋸歯の密集した葉と、時に「筋肉質」と形容される滑らかで逞しい幹を持つシデの一種である**イヌシデ**（Carpinus tschonoskii）という落葉広葉樹が生える。ブナや**ミズナラ**（Quercus crispula）などの落葉樹は、平均気温が暖帯よりかなり低い山の上で見られる。

渓流沿いの湿潤な環境に生育し、渓谷内の木の枝や岩に20cmほどの大きさになる糸状の鮮やかな緑色の**キヨスミイトゴケ**（Barbella flagellifera）や、湿った岩を好み、タバコ葉に似た大きな葉を持つ**イワタバコ**（Conandron ramondioides）などが散策路でよく目にすることができる。イワタバコは夏に薄紫色の星形の花を咲かせる。